

今に生きる群馬の古代地名

北川 和秀

上野国第九十二

碓氷郡

飽馬 安木末 石馬 坂本 佐加毛土 磯部 伊曾倍 石井 伊波井 野後

駅家

片岡郡

若田 和加多 多胡 高渠 太加無曾 佐没 長野 奈加乃

甘楽郡

貫前 奴木乃佐 酒甘 丹生 那非 端下 宗伎 端上 有只

那射

多胡郡

額部 奴加倍 新屋 尔比也 小野 乎乃 拔鉾
山宗 也末奈 織裳 於利毛 辛科 加良之奈 大家 武美 浮囚

八田

緑野郡

林原 八也之波良 小野 乎乃 升茂 高足 佐味 大前 尾張

保美

那波郡

朝倉 阿佐久良 鞆田 佐也多 田後 多之利 佐味 委文 之土利

池田

群馬郡

長野 奈加乃 井出 小野 乎乃 八木 上郊 加無佐土 畔切 安木利

島名

白衣

吾妻郡

長田 奈加太 伊参 伊佐萬 大田 於保太

利根郡

渭田 奴末太 男信 奈萬之奈 笠科 加佐之奈 吳桃 奈久留美

勢多郡

深田 田邑 多無良 芳賀 波加 桂萱 加以加也 真壁 萬加倍

深渠 布加無曾 深沢 布加佐波 時沢 藤沢 布知佐波

佐伊郡

名橋 奈波之 岸新 反治 佐井 淵名 布知奈 駅家

雀部 佐々伊倍 美侶

新田郡

新田 滓野 加須乃 石西 祝人 波布利 淡甘 駅家

山田郡

山田 大野 於保乃 園田 曾乃 真張 萬波利

邑楽郡

池田 伊岐太 疋太 比木太 八田 也太 長柄

* 『倭名類聚抄』は平安時代前期に成立した一種の百科事典。醍醐天皇の皇女勤子内親王のために源順が編纂した。承平(九三二)〜九三八)年間に成立。(二十卷本『倭名類聚抄』巻七)

大宝年間(七〇一〜七〇三)に国名表記を漢字二文字化

上毛野 上野 无耶志 武蔵 木 紀伊 三野・御野 美濃
下毛野 下野 波伯吉 伯耆 嶋 志摩 科野 信濃
多遲麻 但馬 粟 阿波 稻羽 因幡

和銅六年(七一三)に郡郷名を漢字二文字化

・畿内七道諸国郡郷名は、好き字を着けしむ。(『続日本紀』和銅六年五月二日)

神龜三年(七二六)にそれをさらに徹底か

・其の郷の名の字は、神龜三年の民部省の口宣を被りて、改めぬ。(『出雲国風土記』総記)

(『出雲国風土記』総記)

・拝志の郷 本の字は林なり。(『出雲国風土記』意宇郡)

・飯石の郷 本の字は伊鼻志なり。(『出雲国風土記』飯石郡)

・多弥の郷 本の字は種なり。(『出雲国風土記』飯石郡)

・来嶋の郷 本の字は支自真なり。(『出雲国風土記』飯石郡)

市町村数の変遷と明治・昭和の大合併の特徴

年月	市	町	村	計	備考
明治21年	-	(71,314)		71,314	
「明治の大合併」 近代的地方自治制度である「市制町村制」の施行に伴い、行政上の目的（教育、徴税、土木、救済、戸籍の事務処理）に合った規模と自治体としての町村の単位（江戸時代から引き継がれた自然集落）との隔たりをなくすために、町村合併標準提示（明治21年6月13日内務大臣訓令第352号）に基づき、約300～500戸を標準規模として全国的に行われた町村合併。結果として、町村数は約5分の1に。					
22年	39	(15,820)		15,859	市制町村制施行（明治22年4月1日） （明治21年4月17日 法律第1号）
昭和20年10月	205	1,797	8,518	10,520	
「昭和の大合併」 戦後、新制中学校の設置管理、市町村消防や自治体警察の創設の事務、社会福祉、保健衛生関係の新しい事務が市町村の事務とされ、行政事務の能率的処理のためには規模の合理化が必要とされた。昭和28年の町村合併促進法（第3条「町村はおおむね、8000人以上の住民を有するのを標準」）及びこれに続く昭和31年の新市町村建設促進法により、「町村数を約3分の1に減少することを目途」とする町村合併促進基本計画（昭和28年10月30日閣議決定）の達成を図ったもの。約8000人という数字は、新制中学校1校を効率的に設置管理していくために必要と考えられた人口。昭和28年から昭和36年までに、市町村数はほぼ3分の1に。					
31年 9月	498	1,903	1,574	3,975	町村合併促進法失効 （昭和31年9月30日）
平成15年 4月	677	1,961	552	3,190	

14・3403 あが恋は現在もまさかかなし草枕多胡たごの入野いりのの将来もあくかなしも

14・3412 かみつけのくろほねの嶺ろくずはの葛葉かながた愛さかしけ子くらにいや離り来も

14・3417 上毛野いなら伊奈良おほゐの沼くさよその大蘭草外まさに見しよは今こそ勝れ

明治22年の新地名の由来

合併せず	そのまま	14
合併せず	小異	1
上下等が取れる		4
城下町名・宿場名を採用		3
一町名を採用		19
一村名を採用		34
一字名を採用		2
合成地名		24
合成漢字		1
併称		1
合併した村の数を示す		4
自然地名を採用	川	12
	山	3
	丘陵	3
	原野	1
	沼	1
地形	川	4
	その他	2
施設		9(うち神社が4)
	複合	1
位置		3
郡名		2
古地名	古代郷名	12
	合成	1
	その他	13
氏族名		3
万葉歌		3
環境		1
故事		6
年号		1
その他		2
		190
調査中		19

	郡名	新地名	よみ	旧地名	新地名由来	現在
1	利根郡	沼田町	ぬまたまち	沼田町	そのまま	沼田市
2	西群馬郡	倉賀野町	くらがのまち	倉賀野宿	(そのまま)	高崎市
3	西群馬郡	渋川町	しぶかわまち	渋川村	(そのまま)	渋川市
4	佐位郡	伊勢崎町	いせさきまち	伊勢崎町	(そのまま)	伊勢崎市
5	邑楽郡	大島村	おおしまむら	北大島村	北大島村を改称	館林市
6	碓氷郡	秋間村	あきまむら	東上秋間・西上秋間・中秋間・下秋間の4か村が合併して成立	(旧村名)	安中市
7	碓氷郡	後閑村	ごかんむら	上後閑・中後閑・下後閑の3か村が合併して成立	(旧村名)	安中市
8	西群馬郡	高崎町	たかさきまち	本町ほか42町と下和田村・下並榎村・赤坂村および飯塚村の一部が合併して成立	(江戸期の城下町名)	高崎市
9	東群馬郡	前橋町	まえばしまち	石川町など30町と一毛・岩神・萩・国領・才川・清王寺・天川の7か村および前代田・紅雲分・宗甫分・天川原の4か村の各一部が合併して成立	江戸期の城下町名	前橋市
10	那波郡	玉村町	たまむら	福島・南玉・上飯島・上之手・角淵・下新田・上新田・与六分・斎田の9か村が合併して成立	江戸期の宿場名	玉村町
11	吾妻郡	中之条町	なかのじょうまち	中之条・伊勢の2町と西中之条・青山・市城の3か村が合併して成立	(一部町名)	中之条町
12	碓氷郡	安中町	あんなかまち	安中宿・中宿村・小俣村・高別当村・古屋村が合併して成立	(一部宿名)	安中市
13	北甘楽郡	富岡町	とみおかまち	富岡町・七日市村・曾木村の1町2か村が合併して成立	(一部町名)	富岡市
14	緑野郡	藤岡町	ふじおかまち	藤岡町と小林村が合併して成立	(一部町名)	藤岡市
15	新田郡	太田町	おおたまち	太田町・大島村の各一部が合併して成立	(一部町名)	太田市
16	邑楽郡	館林町	たてばやしまち	館林町と谷越村・当郷村・成島村の各一部が合併して成立	(一部町名)	館林市
17	吾妻郡	長野原町	ながのはらまち	川原湯・川原畑・林・横壁・長野原・大津・羽根尾・古森・与喜屋・応桑の10か村が合併して成立	(一部町名)	長野原町
18	吾妻郡	草津村	くさつむら	草津・前口・小雨・太子(おおし)・日影・赤岩・生須(なます)・入山の8か村が合併して成立	(一部村名)	六合村・草津町
19	碓氷郡	坂本町	さかもとまち	原・坂本・峠・入山・北野牧の5か村と西野牧村の一部が合併して成立	(一部村名)	松井田町
20	碓氷郡	松井田町	まついだまち	松井田村と新堀村が合併して成立	(一部村名)	松井田町
21	山田郡	大間々町	おおまままち	大間々と桐原の2か村が合併して成立	(一部村名)	大間々町
22	利根郡	池田村	いけだむら	上発知・中発知・発知新田・下発知・佐山・奈良・秋塚・岡谷の8か村が合併して成立	一説には合併時村名決定で紛糾したため、初代村長松井八十吉の自宅付近の下発知字池田を村名にすることで決着したという(池田村史)	沼田市
23	西群馬郡	駒寄村	こまよせむら	大久保村と漆原村が合併して成立	村中央の大久保字駒寄をとって命名された	吉岡町
24	吾妻郡	沢田村	さわだむら	山田・折田・上沢渡・下沢渡・四万の5か村が合併して成立	合併促進の中心となった沢渡・折田・山田地区の各1字をとって命名したといわれる	中之条町
25	西群馬郡	高山村	たかやまむら	中山村と尻高(しつたか)村が合併して成立	尻高と中山の各1字をとって命名された	高山村
26	西群馬郡	京ヶ島村	きょうがしまむら	京目・大沢・萩原・島野・本島名・矢島・西島の7か村が合併して成立	大字名の組み合わせによる	高崎市
27	西群馬郡	白郷井村	しろさといむら	上白井・中郷の2か村が合併して成立	合併両村の文字を合成して命名された	子持村
28	西群馬郡	小野上村	おのがみむら	小野子・村上の2か村が合併して成立	合併両村の合成地名	小野上村
29	西群馬郡	金島村	かなしまむら	阿久津・祖母島(うばしま)・金井・川島・南牧(なんもく)の5か村が合併して成立	金井・祖母島各村から1字ずつとり名付けられた	渋川市
30	西群馬郡	清里村	きよさとむら	池端・野良犬・上青梨子・青梨子の4か村が合併して成立	池端の池の字のさんずいと上青梨子・青梨子の青と結合して清、野良犬の野の里偏をとり清里と命名した(群馬郡誌)	前橋市
31	新田郡	藪塚本町	やぶづかほんまち	本町・藪塚・山神・大久保・六千石・寄合の6か村が合併して成立	(一部村名の併称か)	藪塚本町

32	西群馬郡	六郷村	ろくごうむら	上小鳥・下小鳥・筑縄・上小埜(かみこばな)・下小埜・上並榎の6か村が合併して成立	6か村が合併してできたことによる(名称区域)	高崎市
33	佐位郡	三郷村	みさとむら	波志江・安堀・太田の3か村が合併して成立	3か村が合併したことによる	伊勢崎市
34	新田郡	九合村	くあいむら	東矢島・西矢島・新井・飯田・飯塚・東別所・内ヶ島・小舞木・新島の9か村が合併して成立	9ヶ村が合併したことによるか	太田市
35	邑楽郡	六郷村	ろくごうむら	半済(はんせい)・小出(おいで)・神尾(かんのお)・小沢・牛淵・本所の6か村が合併して成立	6か村が合併して成立したことになむ	館林市
36	利根郡	白沢村	しらさわむら	高平・生枝(なまえ)・岩室・尾合・平出・上古語父・下古語父の7か村が合併して成立	地内を南北に貫流する片品川支流白沢川になむ	白沢村
37	吾妻郡	名久田村	なくたむら	平・横尾・大塚・赤坂・栃窪の5か村が合併して成立	名久田川の名になむ(合併史)	中之条町
38	碓氷郡	九十九村	つくもむら	国衛・高梨子・下増田・小日向(おびなた)の4か村が合併して成立	九十九川流域に位置することによる(九十九村誌)	松井田町
39	碓氷郡	烏淵村	うぶちむら	川浦・岩氷・水沼の3か村が合併して成立	烏川の沿岸に位置することから名付けられたといわれる	倉淵村
40	緑野郡	神流村	かんなむら	岡之郷・下栗須・上戸塚・下戸塚の4か村が合併して成立	地内東方を流れる神流川になむ	藤岡市
41	南勢多郡	木瀬村	きせむら	天川大島・上大島・野中・東上野・女屋・上長磯・下長磯・小島田・駒形新田・下大島・笈井(うつばい)・小屋原・上増田・下増田の14か村が合併して成立	村内を流れる桃木川と広瀬川との合成地名(合併史)	前橋市
42	南勢多郡	南橋村	なんきつむら	上小出・下小出・北代田・下細井・上細井・龍蔵寺・青柳・日輪寺・川端・荒牧・川原島新田・関根・田口の13か村が合併して成立	古くから人々に親しまれてきた橋山の山頂を境界にして、南側を南橋(みなみたちばな)村、北側を北橋村としたことによる	前橋市
43	碓氷郡	西横野村	にしよこのむら	二軒在家・人見・八城・行田(おくなだ)の4か村が合併して成立	古くから横野と呼ばれていた丘陵地の西部に位置することによる	松井田町
44	邑楽郡	多々良村	たたらむら	高根・木戸・日向(ひなた)の3か村と谷越・成島2か村の各一部が合併して成立	地域と関係深い多々良沼になむ(邑楽郡誌)	館林市
45	山田郡	川内村	かわうちむら	山田・須永・東小倉・西小倉・高津戸の5か村が合併して成立	合併した5か村が渡良瀬川の内側に位置することから起こったという(山田郡誌)	桐生市・大間々町
46	北甘楽郡	月形村	つきがたむら	大日向(おおひなた)・六車(むくるま)・大仁田の3か村が合併して成立	村の形が、新月が西山に入らんとするのに似ていることによる命名という(合併史)	南牧村
47	西群馬郡	堤ヶ岡村	つつみがおかむら	棟高・菅谷・三ツ寺・中泉・福島 of 5か村が合併して成立	三ツ寺や菅谷の貯水池や溜池など大小数多の池塘(堤)があったが、雨がなければ堤が岡になることによる(群馬郡誌・堤ヶ岡村誌)	群馬町
48	利根郡	古馬牧村	こめまきむら	師・政所・真庭・後閑・下牧(しももく)・上牧・大沼・奈女沢の8か村が合併して成立	昔から牧場があったことから(合併史)	月夜野村
49	利根郡	湯ノ原村	ゆのはらむら	相俣・新巻・羽場の3か村が合併して成立	新巻の湯宿が当村の生活の中心をなすことによるという	新治村
50	西群馬郡	東村	あずまむら	川曲・稲荷(とうか)新田・下新田・上新田・小相木・後家・箱田・前箱田・江田・古市の10か村が合併して成立	往時官道東道が当地を通過していたことになむ(東村誌)	前橋市
51	緑野郡	美九里村	みくりむら	本郷・根岸・川除・牛田・神田・矢場・保美・三本木・高山の9か村が合併して成立	当地に平安末期高山荘・高山御厨が設置されたことにより、9か村が合併したため美九里と名付けられた(多野郡誌)	藤岡市
52	緑野郡	八幡村	やわたむら	山名・木部・阿久津・根小屋の4か村が合併して成立	山名に鎮座する旧郷社八幡宮になむ	高崎市
53	新田郡	生品村	いくしなむら	村田・市野井・市・反町(そりまち)・多・多村新田・四軒在家・小金(こきん)の8か村と脇屋村・小金井村・天良村の各一部が合併して成立	地内に生階明神があることになむ。同社は建武中興の際、新田義貞が鎌倉幕府倒幕の挙兵の地である	新田町
54	利根郡	利南村	となみむら	戸鹿野・戸鹿野新町・沼須・上沼須・下久屋・上久屋・横塚の7か村が合併して成立	利根郡南部に位置することによる	沼田市
55	吾妻郡	東村	あずまむら	五町田・箱島・奥田・新巻・岡崎新田の5か村が合併して成立	吾妻郡の東部に位置することから(合併史)	東村
56	碓氷郡	白井村	うすいむら	横川・五料の2か村が合併して成立	地名は峠名・郡名をとり名付けられたが、碓氷としなかったのは、かつて五料村が碓居村と称されていたためであるという説がある	松井田町
57	片岡郡	片岡村	かたおかむら	乗附・石原・寺尾の3か村が合併して成立	郡名によるか	高崎市

58	吾妻郡	伊参村	いさまむら	原岩本・五反田・蟻川・大道新田の4か村が合併して成立	往古伊参郷に属したと伝えられていることによる	中之条町
59	北甘楽郡	新屋村	にいやむら	白倉・庭谷・造石・天引・金井の5か村が合併して成立	古代の郷名にちなむか	甘楽町
60	北甘楽郡	額部村	ぬかべむら	南後箇・野上・岡本・岩染の4か村が合併して成立	「和名抄」の額部郷にちなむ	富岡市
61	西群馬郡	上郊村	かみさとむら	中里・保渡田・生原・井出の4か村が合併して成立	「和名抄」群馬郡十三郷の1つ上郊(かむさと)郷から取った	箕郷町・群馬町
62	西群馬郡	長野村	ながのむら	吾嶺・西新波・菊地・南新波・北新波・楽間・行力・浜川の8か村が合併して成立	当地が「和名抄」群馬郡の長野郷に当たり、また中世末期箕輪城を築城した豪族、長野氏の発祥地であることによる(長野村誌)	高崎市
63	南勢多郡	芳賀村	はがむら	小坂子・五代・端気・鳥取・嶺・勝沢・小神明の7か村が合併して成立	古代の郷名によるか	前橋市
64	南勢多郡	桂萱村	かいがやむら	江木・堤・亀泉・堀之下・石関・東片貝・西片貝・三俣・幸塚・上泉・荻窪の11か村と上沖之郷・下沖之郷の計13か村が合併して成立	古代の郷名によるか	前橋市
65	利根郡	桃野村	もものむら	上津・下津・月夜野・小川・石倉の5か村が合併して成立	古代の呉桃郷と月夜野村との合成(合併史)	月夜野村
66	吾妻郡	太田村	おおたむら	泉沢・小泉・植栗・岩井の4か村が合併して成立	旧郷名による	吾妻町
67	北甘楽郡	吉田村	よしだむら	南蛇井・中沢・蚊沼・神成(かんなり)・上小林村の5か村が合併して成立	昔の郷名による。時の村長の提案(合併史)	富岡市
68	那波郡	宮郷村	みやごうむら	宮古・田中・東上之宮・西上之宮・今・田中島・連取・宮子の8か村が合併して成立	この附近を昔、宮の郷と呼んだことにちなむ(合併史)	伊勢崎市
69	邑楽郡	伊奈良村	いならむら	板倉・粕谷・岩田・内蔵新田の4か村が合併して成立	かつて板倉村の一部を伊奈良の里と称したことにちなむ(邑楽郡誌)	板倉町
70	西群馬郡	長尾村	ながおむら	北牧・白井・吹屋・横堀の4か村が合併して成立	白井城主長尾氏にちなむ(合併史)	子持村
71	新田郡	綿打村	わたうちむら	大根・上江田・上田中・下田中・花香塚・金井・嘉禰・大・上中・溜池・権右衛門の11か村が合併して成立	中世の綿打氏に由来し、往時地域の総称であったところにより付けられた	新田町
72	北勢多郡	赤城根村	あかぎねむら	北勢多郡青木・砂川・輪組・石戸新田・多那・生越(おごせ)・根利・日影南郷と利根郡小松・柿平・日向南郷(ひなたなんごう)の11か村が合併して成立	「万葉集」巻14に「上毛野久路保の嶺ろの久受葉がた愛しけ児らにいや離り来も」という歌が収められており、久路保の嶺が赤城山であり、そのふもとにあることによるともいう(利根郡誌・利根村誌)	利根村・昭和村
73	多胡郡	入野村	いりのむら	小串・黒熊・深沢・石神・中島・小暮・馬庭・岩井・多比良の9か村が合併して成立	「万葉集」巻14に詠まれている「多胡の入野」が黒熊のあたりに比定されるという「後上野志」の説を採用して命名された(多野藤岡地方誌)	吉井町
74	南勢多郡	黒保根村	くろほねむら	宿廻・水沼・八木原・上田沢・下田沢・上神梅・下神梅・塩沢の8か村が合併して成立	「万葉集」巻14の歌「かみつけぬ くろほのねろの……」の言葉をとおり、赤城山塊黒檜山にちなむ(県文書)	黒保根村・大間々町
75	南勢多郡	富士見村	ふじみむら	田島・引田・横室・原之郷・小沢新田・時沢・小暮・皆沢新田・石井・漆窪・市之木場・山口・米野の13か村が合併して成立	村内の各地から富士山を望むことができること、また日本の象徴富士山に由来する富士見十三州(晴天の日には富士山頂から13の国が見える)にもちなんで命名された	富士見村
76	吾妻郡	孀恋村	つまごいむら	三原・今井・鎌原(かんばら)・門貝・袋倉・芦生田・西窪・大笹・大前・干俣・田代の11か村が合併して成立	日本武尊が弟橘比売を追慕して三嘆した故事にちなむと伝える(合併史)	孀恋村
77	西群馬郡	滝川村	たきがわむら	西横手・宿横手・中島・上滝・下滝・下斎田・八幡原・宇貫・板井・滝の10か村が合併して成立	「群馬郡誌」や明治43年刊の「滝川村誌」には、織田信長の家臣、滝川一益にちなむとあり、昭和59年刊の「滝川村誌」には、地内を流れる滝川にちなみ、同川開削に尽力のあった江原源左衛門重久が滝川の名を許された功績をたたえる意味を込めて命名したとある	高崎市・玉村町
78	山田郡	相生村	あいおいむら	下新田・如来堂・天王宿・蕪町・天沼新田の5か村が合併して成立	下新田にある天然記念物の相生の松の名の如く、益々相繁盛し、相生長せんとの意から(合併史)	桐生市
79	西群馬郡	明治村	めいじむら	小倉・上野田・下野田・北下・南下の5か村が合併して成立	明治の年号にちなむ	吉岡町
80	那波郡	豊受村	とようけむら	下道寺・富塚・除・大正寺・馬見塚・長沼・上蓮沼・東飯島・下蓮沼・国領の10か村が合併して成立	土地が豊穰で五穀がよく稔ることを意味するとともに、伊勢崎が伊勢神宮によった地名なのに対し、伊勢の外宮である豊受大神宮にちなんで名付けられたという	伊勢崎市
81	邑楽郡	富永村	とみながむら	上五箇・萱野・木崎・上中森・下中森の5か村と瀬戸井・萱野・赤岩村の各一部が合併して成立	当村が比較的富裕であったことにより命名されたという(千代田村誌)	千代田町

